

■
■
■

□本號中繪『沼津海岸』はワツトマンハツ切のスケッチに候

□寫眞版『畫室のそと』は、南の崖より見たる處にて花は白き躑躅に候。『畫室のうち』は西の入口より寫せしもの、土曜日の稽古中に御座候

□次號には石川欽一郎氏の美術談叢『風景畫の二別』を出すべく候

□次號の原色版は大橋正堯氏の『京城の一部』石版には本號に間に合はざりし相田氏の『初夏』及び松岡氏の『京の郊外』を挿入可申候

□『みづゑ』第一より八迄、十より十三迄及び十五、十七、十九、二十、二十九は品切に御座候

□『美術家小傳』は最早一冊も手許に無之候、若し強いて御入用の方は、東京神田區東松下町小柴英氏方へ實費送料共二十二錢を送りて御たのみになれば分配して呉れる事と存候

□和歌山五月會々員の寫眞は保田虎太郎

氏よりの寄贈に候、同氏よりの通信によれば會員たる關谷氏（左の方中段立木に近き位置）は最優等者として徳川侯爵より褒賞を受けられ候由に御座候

近事

△日本水彩畫會研究所春季寫生會は四月三日四日埼玉縣越ヶ谷地方にて開催したり

△全研究所三月例會は二十八日開會、午前には、眞野講師の「透視畫法」講話あり、午後作品百七十餘枚に對し河合、戸張、荻原、大下諸氏の批評あり、終て萩原氏の「解剖學の話」ありて夕暮散會したり。

この日コンクールにて賞を得しは夏目七策、川上左京並木富太郎の三氏なりし

△東京毎日新聞にては漫畫の懸賞募集をなせり選者は大下藤次郎氏なり

△白馬會展覽會は本月十日迄開會せらるべし

問に答ふ

■水彩畫は手本によりて稽古するのと實

物により稽古するのと何れが宜しきや、若し手本がよいとすると和製舶來何れなりや（大阪初學生）◎『みづゑ』四十八號下氏の『模寫について』といへる講話を是非再讀せられよ、最も極めて初學の人に於て寫生不可能なら手本にてもよろしきが、舶來品にても必ず可なりといへず、色彩や感じの我國と異なるものあり、また印刷のために其色の強烈なるもあり、和製にても一時佳良の臨本出でしも今市中に殆ど跡方もなし、『みづゑ』の口繪原色版の分は、印刷も良好にてや、原畫の趣ありかゝるものを參考とせらるれば可ならん■讓品交換讓與の御取扱は水彩畫に關係あるものに限るや、又物品を托せし人の賣價も『みづゑ』誌代に組込まるゝにや（銀園生）◎範圍は極々狹義に解されたし、次に賣價は賣主へ送付すべし、たゞ物品賣約後の送金に對して返戻の手續を省かんため誌代繰入となせしなり■普通讀者にして肉筆臨本借用を許可さるゝ事を得るや（自然兒）◎會友若くは特別讀者に限り候■京都にて水彩畫を學ばんと